

(様式1)

自己評価表

愛媛県立土居高等学校
学校番号(3)

教育方針	教育基本法及び学校教育法に基づき、人格の完成を目指して、徳・知・体の調和のとれた、心身ともに健全で個性豊かな人間を育成する。	重点目標	「学校力」の強化と「人間力」の育成 えがお まなびや ～愛顔を育む学舎を目指して～
------	--	------	---

領域	評価項目	具体的目標	評価	目標の達成状況	次年度の改善方策
学力・進路保障	確かな学力の定着と進路実現	教育機器を活用したり、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた「分かる授業」の実践に努め、生徒の授業への満足度を80%以上にする。	A	アンケートでは生徒の90%が「分かる授業」になるよう教員が工夫していると感じている。	教育機器を活用したり、アクティブ・ラーニングの手法を取り入れた授業をさらに推進していく。
		学習習慣の定着を目指し、学年+1時間以上の1日平均家庭学習時間を確保させる指導を行う。	C	1学年が70分、2学年が58分、3学年が120分で全学年で目標達成ができなかった。全校総平均についても前年比14%減であった。	学習習慣が身に付いていない生徒が多いため、適切な課題を出して家庭での学習を促すだけでなく、ショートホームルーム等を有効活用して学習習慣を身に付けさせていきたい。
		国公立大学、私立大学を含む進学希望者の進学先決定率を100%にする。	B	国公立大学合格者を出すことはできたが、国立大・私立大ともに不合格者が出た。	進路検討会を早めに持ち、学習の指針をしっかりと示し、自己分析できる生徒を育てることが必要である。
		希望する事業所への就職決定率を100%にする。	B	二次募集に回った生徒もあり、進路決定に向けてのスタートが遅い生徒もいた。	計画的に基礎学力の向上に取り組んでいく。
生徒指導・安全教育	基本的な生活習慣の確立と安全意識の育成	心身の健康を維持する重要性を継続的に指導しながら、年間の出席率97%以上を維持する。	B	昨年1月末現在で98.5%であり過去6年間でも最も良好な数値であったが、今年度は97.9%と出席率が低下している。	クラス単位で、「健康観察表」を効果的に活用して日頃からの健康管理に努める。不登校傾向のある生徒への対応力をつける。
		身だしなみ指導において、年間合格率85%以上を目指すとともに、ルールを遵守する意識やマナーの向上に取り組む。	A	今年度の年間合格率は93%で、昨年の94%と同様に良好な数値であった。校則に反する指導件数も昨年度から大幅に改善した。	学年集会、全校集会など様々な場面で繰り返し指導を行い成果が出た。来年度は、身だしなみ指導の回数を年間10回から8回に減らし、生徒の意識を維持させたい。
		コミュニケーション能力の向上に向け、積極的に笑顔で挨拶のできる生徒100%を目指す。	B	授業、職員室の出入り、教職員、来校者へのあいさつは積極的に笑顔で90%以上の達成状況であった。ただし、生徒同士のあいさつについては笑顔ではあるものの達成状況は63%で、昨年度から16ポイント低下した。	生徒会が中心となり学校行事や特別活動でのあいさつが活発であるが、生徒相互の関係を深め、生徒間のあいさつを向上させる工夫をしていきたい。
		交通マナーの遵守を働きかけ、交通事故防止に向けた取組を年間10件以上行う。	A	登下校指導、自転車点検指導やホームルーム活動における交通安全教育の実施等、交通事故防止に向けた取組を17回行った。	交通事故防止に向けた取組を継続実施していくとともに、ヘルメットの着用の一層の徹底を図り、交通マナーアップに向けた啓発活動に努めたい。

豊かな人間性・個性の伸長	豊かな人間性・思いやりの心の育成と個性の伸長	朝読書を実施するとともに、読書を推奨し、生徒一人当たりの図書貸出冊数を平均3冊以上にする。ビブリオバトル等の行事に参加し、言語活動の充実を図る。	D	朝読書は、全校朝礼、漢字テスト等がある日を除き、SHRの時間に10分間程度、朝読書を行っている。年間生徒貸出総数は306冊、生徒一人当たりは年1.18冊。ただし、運用については各担任の裁量に任せている。ビブリオバトルには参加できなかった。	学習指導要領の改正により、SHRの時間の使い方が最大の課題である。ホームルーム担任から、朝のSHRの時間の使い方について、基礎的基本的な知識の習得に充てたいという意見も多く、朝読書の在り方について来年度の検討課題にしたい。
		充実した学校生活を送らせるために、部活動加入率を90%以上とし、県総体出場生徒数40名以上を目指す。	B	部活動加入率は97.7%で目標を達成することができた。県総体出場生徒数は昨年度が38名で、今年度は36名であった。また、情報科学部は昨年観光甲子園でグランプリに輝いた活動を継続している。	運動部、文化部とも昨年度のような顕著な活躍はなかったが地道に活動している。一方、部員が不足して大会の出場も危ぶまれる部活動もあるため、部の編成について継続協議していきたい。
		各生徒が年2回以上ボランティア活動に参加し、地域との交流を深め、社会貢献に対する意識を高める。	C	昨年度のボランティア活動参加回数は1人あたり、0.78回だったのに対して、今年度は1月末時点で延べ239人が参加し、1人あたり0.88回と少し参加回数が増えた。	ボランティアに対して、高い意識を持ち一人で20件以上参加している生徒もいる。参加者の輪を広げる方策を探りたい。
		相手を尊重する、いじめ問題の防止に向けた取組を年間10件以上行う。	A	人権教育課長講話、人権・同和教育講演会やHR活動等を通して、自己肯定感を育む取組をした。	より一層、自他ともに尊重する意識を高められるように、講話や取組の内容等を工夫していきたい。
地域との連携・学校の魅力化	保護者・地域との連携と魅力ある学校づくり	P T A 総会（公開授業、講演会を含む）への出席率30%以上を目指す。	C	授業参観も含めて18%の出席状況であった。まだまだ低い数値である。	授業参観を2時間にしたり、P T A 役員からの呼びかけに力を入れたりして数値を向上させたい。
		保護者、地域への教育活動の公開日を年間15日以上確保するとともに、来校者数の増加を図る。	A	保護者、地域に対し、授業公開を24日行い、生徒の活動を参観していただいた。	社会に開かれた教育課程を実現するために、学校を保護者・地域に開放し、本校の教育活動への理解と協力が得られるよう工夫していきたい。
		学校公式ホームページの内容を毎日更新するなど、学校の教育活動を積極的に保護者や地域に発信する。また、新聞社、地元ケーブルテレビ等にも情報発信をする。	A	一日平均1回更新し、積極的に情報発信することができた。また、新聞社や地元ケーブルテレビ等にも数多く取り上げていただき、情報発信できた。	本校のことをあまり知らない方にも興味・関心を持っていただけるホームページとなるよう、改良していきたい。
		地元保育園・小学校・中学校等との交流事業を年間10件以上確保するなど、連携に努める。	A	本年度はたくさん引き合いもあり、目標以上の成果を出すことができた。何よりも良かったのは生徒たちが自信を持ち、自分たちの学ぶ農業は人のためになっているという気持ちを持って活動できたところである。	交流件数が増えすぎているので、時期と条件を見ながら精査する必要がある。
現職教育	教職員の資質向上	教職員の資質能力の向上を図るため、各教員が3年間に1回は教科の研究授業を実施する。	D	今年度の研究授業の実施予定教員8名のうち、実施者は5名、実施率は62.5%であった。	働き方改革、教員の校務の多忙化もあり、年間計画通りに研究授業を実施することができなかった。多くの教員の要望もあるので研究授業の在り方（規定改正）を検討していきたい。
		電子黒板を活用した授業を年1回以上実施する等ICTを活用した授業研究を行う。	B	全員の教員がICTを活用した授業研究は行うことができた。電子黒板はあまり活用できなかった。	電子黒板を使用できるのが視聴覚教室のみであり、活用する教員が少なかった。環境施設の整備が今後の課題である。

※ 評価は5段階（A：十分な成果があった B：かなりの成果があった C：一応の成果があった D：あまり成果がなかった E：成果がなかった）とする。